

第 28 回 通 常 総 会 記 録

日時 平成9年6月7日 午後1時30分～

場所 富山県民会館 401号室

I. 総会議事の概要

会 員 総 数 242名 うち出席者60名 委任状145名

会 長 挨拶 越山健二

議 長 選 出 厚生連本所 焼田明治

議事録署名人 新湊市 堀江耕治

新湊市 佐伯秀信

書 記 宮崎 徹, 井村 守

議 事

第1号議案 平成8年度事業報告書, 財産目録, 収支決算報告承認について

第2号議案 平成9年度事業計画及び収支予算承認について

第3号議案 役員の改選について

第4号議案 顧問の承認について

特 別 講 演 哲学者 内山 節

演 題 「農の思想を考える」

II. 平成8年度事業報告書

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

I. 事業の概況

平成8年度の事業の終了に当たり、事業の概要について報告致します。

現在、国産米は過剰傾向にあり、さらに輸入を義務づけさせられたウルグアイ・ラウンド米が付加され大量の米あまり状態となっています。水田の転作率も20%前後と高くなり、さらに90年代に入って、野菜類の輸入も急増し国内における農産物の生産基盤を大きく揺るがしています。

このような中、県内では様々な転作作物が栽培され、また中核農家や集落営農により大規模化、共同化を積極的に進め、新たな農業形態を目指す動きもでてきています。

本会ではますます厳しくなる農業、農村に生活する人々のより豊かで健康な生活を築くため、会員の皆さまと共に調査研究を続けてまいりました。

昭和45年より続けております農業機械災害事故調査、また、昭和55年から続けております農業機械以外による農業災害事故調査について、今年度も実施してきました。また、農薬中毒の臨床例調査も昭和55年より続けております。

農薬による生体影響調査、農作業粉塵による健康影響調査、また、富山県内の空中花粉調査、アレ

ルギーに関する調査など農業医学的なテーマについても農協組織や関係機関と協力して実施してきました。

農村における健康状態の把握についても高岡、滑川の農村検診センターを始め各関連機関で取り組まれています。特に、これからの高齢化社会にとって大きな課題である骨粗鬆症に関する検診についても取り組まれ、様々な知見が明らかになっています。また、農村環境調査も引き続き実施し、環境と健康問題にも取り組んできました。

さらに、高齢者問題では、農協共済総合研究所より委託を受けた「農村における老化とその対応」の調査結果に基づき、農村の高齢者の生きがい因子の検討を行っていますが、農業を行うことと、生き甲斐をもつことが深い関係にあることが明らかになりつつあり、農業、農村の持つ意味に新しい視点を与えるものとして注目されます。

これらの研究成果は盛岡市で開催された第45回日本農村医学会や第14回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会など、各種学会や本会会誌で発表しています。

以上、本会の活動は医療関係者をはじめ行政、農協および農村の保健と医療や健康問題に関心のあるあらゆる方々の協力により実施されてまいりました。次年度も引き続き事業計画に基づき、さらに研究調査に鋭意取り組んでまいりたいと思いますので、会員各位の絶大なるご協力をお願い致します。

最後に県当局、農協各連より絶大なるご援助をいただいておりますことに対して、厚くお礼申し上げます。

II. 主な事業項目の概要

I. 第27回総会（平成8年6月8日、富山県民会館）

- ① 議 事
 - ・平成7年度事業報告，収支決算書承認
 - ・平成8年度事業計画，収支予算書案承認
 - ・役員の一部改選，顧問の一部変更承認

② 特別講演

講師 元富山医科薬科大学学長 佐々学氏
演題 「環境と健康」

II. 研究調査活動

(1) 農業災害に関する調査研究

①富山県における農業機械災害事故調査

昭和45年より実施している農業機械災害事故調査を全県の整形外科，外科，眼科，接骨院約900カ所あまりを対象に臨床例の収集に努めた。本年度も一次調査，二次調査（詳細調査）を実施した。事例数が80例あまりであり，特に減少傾向にはなく，今後の予防対策の強化が望まれた。

②富山県における農業機械以外の農業災害事故調査

昭和55年より実施している標記調査について，前項と同様一次調査，二次調査を実施した。はしご，脚立などからの転落などの重大事故も発生しており，十分な安全対策が望まれた。

(2) 農薬中毒に関する調査研究

① 富山県における農薬中毒の臨床例の収集とその問題点の解明

昭和55年より県内の内科、外科、小児科、眼科、皮膚科を標榜する約730カ所の医療機関全てを対象に農薬中毒の臨床例の有無を調査し、次いで症例の有った医療機関に詳細報告を求めた。症例は例年の約20例より多く30例あまりであり、バラコートによる症例は約10例であり、若干減少傾向にある。ただし、すでに10年以上前に販売中止されたバラコート剤のグラモキソンによる中毒事例もあり、今後とも要注意である。

② 生体における農薬残留に関する調査研究

農薬散布者とその家族および、非農家の有機リン剤の尿中代謝物を継続して測定した。その結果、農薬散布従事者以外の者の家族からも、農薬散布時期以降に尿中代謝物が増加し、散布後に空气中に浮遊する農薬による暴露と考えられた。また、非農家では、農家ほどではないが経時的に尿中代謝物が検出され、食物由来による農薬暴露について否定できなかった。

(3) 農村におけるアレルギーに関する調査研究

利賀村住民および、農村検診センター受診者のスギ・ラストの陽性率について比較検討した。その結果、花粉飛散が多いと考えられる利賀村住民より、平地の農村住民に陽性率が高い傾向にあり、今後その要因について検討する必要があると考えられた。

(4) 農作業粉塵による健康影響に関する調査研究

滑川農村検診センター受診者約500名について、農作業環境に多い真菌類のラストを行った。その結果、陽性率1～2%であった。ただし、農家、非農家の別、あるいは農作業粉塵暴露者と非暴露者の比較では、陽性率に特に差は認められなかった。なお、陽性率1～2%は一般人の陽性率と考えられ、今後、より、農作業粉塵暴露の多い環境で作業する人と比較する際の基礎的数値として用いることができると考えられる。

(5) 農村環境の変化と健康影響に関する調査研究

高岡市農協管内において、1990年に台帳登録をした地域内すべての神社の杉の木約650本について梢、葉、樹形の活力度調査を継続して実施した。また、高岡市内約250カ所で二酸化窒素を夏と冬に測定した。その結果、夏に比較して冬の二酸化窒素濃度が高く、緑の活動が大気浄化に役立っていると考えられた。

(6) 農村における各種健康調査

農村検診センターにおける受診者について、超音波検診結果および、生活習慣と検診結果の関連などについて検討した。

(7) 「農村における老化とその対応」に関する調査研究

昨年、農協共済総合研究所より2年間の委託研究として受託した「農村における老化とその対応」の結果について報告した。今年度はさらに、農村の高齢者の生きがいを持つ者と持たない者について、その因子について多重ロジスティック回帰分析を行い、生きがいの関連因子について

検討を始めた。

農業に対する意欲と農村の高齢者の生きがいの関連が認められるなど、今後、農業、農村の新たな意義を明らかにするものと期待される。

Ⅲ. 各種研究集会参加・交流並びに開催

(1) 第45回日本農村医学会

- ・開催日時 平成8年10月24～25日
- ・開催場所 盛岡市
- ・学会長 岩手医科大学教授 角田文男
- ・会員発表 富山県より7題発表
 - ①終末期医療の在り方を考える。－アンケート調査より－ 大重美智留 他
 - ②人間ドックによる発見癌の背景因子についての検討 岸 宏栄 他
 - ③入院患者の満足度について－退院患者へのアンケート調査より－ 加藤 真澄 他
 - ④Threadwire saw (T-saw) を用いた
完全還納式椎弓切除術(金大式)の経験 米澤 嘉朗 他
 - ⑤要精検未受診者の実行要因－アンケート調査を試みて－ 作道 康子 他
 - ⑥申し送り廃止後の看護婦の仕事始めの意識変化
－自己実現と依存性との関連－ 飯田真由美 他
 - ⑦食生活習慣と血中カロチン濃度 大浦 栄次 他

(2) 第14回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会

- ・開催日時 平成9年2月8日(土)
- ・開催場所 厚生連高岡病院 地域医療研修室(1)
- ・特別発言
 - ・「農村医学の行方」 越山 健二
- ・会員発表 8題
 - ①農村における老化とその対応について 大浦 栄次 他
 - ②高齢者の生きがいに関する意識調査の結果について 渡辺 正男 他
 - ③JA助け合い組織の現状と課題 寺崎 直樹
 - ④胃癌検診における問題点と今後の方向 小川 忠邦
 - ⑤検診センターにおける腹部超音波検診の成績について 中谷 恒夫 他
 - ⑥性格型と精密検査受診行動の関連性－アンケート調査を試みて－ 小林 昭子 他
 - ⑦検診連続受診者の生活習慣の変化について 岸 宏栄 他
 - ⑧糖尿病患者に対する運動療法指導の充実への取り組み 笠谷真佐美 他

Ⅳ. 印刷物の刊行

会誌第28巻の発刊

Ⅲ. 主な行事（平成8年4月1日～平成9年3月31日）

年月日	主 な 行 事	
	事 項	場 所
8. 5. 22～24	第7回アジア農村医学会	旭川市
5. 29	平成7年度第3回理事会	厚生連会議室（9名）
5. 30	山村住民の耳鼻咽喉科検診，難聴調査 (6/13, 6/27)	利賀村
6. 7	第27回総会	富山県民会館
6. 28	日本農村医学会理事会	盛岡市（越山会長）
7.	緑の調査， 大気汚染（二酸化窒素）の測定（12月）	高岡市
9.	前期農薬中毒・農業災害事故調査	
10. 24～25	第45回日本農村医学会	盛岡市（発表演題7題）
12. 11	平成8年度第1回理事会	厚生連会議室（10名）
9. 1.	後期農薬中毒，農業災害事故調査	
1. 31	日本農村医学会理事会	東京（越山会長）
2. 8	第14回富山県農村医学研究及び 健康管理活動発表集会	厚生連高岡病院（約60名）

IV. 総 会

第27回通常総会 平成8年6月8日

総会日現在会員数		265名
出席会員数	実際に出席した会員	62名
	代理議決	0名
	書面議決	147名
	計	209名
<p>重要な議事及び議決事項</p> <p>第1号議案 平成7年度事業報告書、財産目録、収支決算書承認について 原案承認</p> <p>第2号議案 平成8年度事業計画案及び収支予算案承認について 原案承認</p> <p>第3号議案 役員の一部改選について 原案承認</p> <p>第4号議案 顧問の一部変更承認について 原案承認</p> <p>※議事終了後、講演会を開催 特別講演 元富山医科薬科大学学長 佐々学氏 「環境と健康」</p>		

財 産 目 録

(平成9年3月31日現在)

(単位：円)

内 訳	金 額	備 考
預 金	45,653	
計	45,653	

- ①富山県における農業機械災害事故調査
 - ②富山県における農業機械以外による農業災害事故調査
- (2) 農薬中毒に関する調査研究
- ①富山県における農薬中毒の臨床例の収集とその問題点の解析
 - ②農薬散布者の健康調査
 - ③有機リン剤の体内残留に関する調査研究
- (3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究
- ①農村地区における花粉症に関する調査研究
 - ②農村住民のアレルギー疾患に関する調査研究
- (4) 農作業及び農作業環境と健康障害に関する調査研究
- ①農作業粉塵による健康障害に関する調査研究
 - ②各種農作業における作業環境及び労働負荷に関する調査研究
- (5) 農山村における騒音による聴力障害などに関する調査研究
- ①農業機械の騒音分析及び作業中騒音暴露量の測定
 - ②農作業騒音防止に関する調査研究
- (6) 農村環境の変化と健康影響に関する調査研究
- ①農村における緑の調査
 - ②農村における大気汚染に関する調査研究
 - ③農薬による環境汚染に関する調査研究
- (7) 農村における生活習慣と健康に関する調査研究
- ①食生活と健康に関する調査研究
 - ②農村生活の変化と健康障害に関する調査研究
- (8) 農村におけるプライマリーヘルスケアに関する調査研究
- ①農村における健康管理運動に関する調査研究
 - ②農村検診における各種疾患の要因分析に関する調査研究
- (9) 農村における高齢者問題に関する調査研究
- ①農村高齢者の生きがい因子の解析に関する調査研究
 - ②農村におけるコミュニティ・ケアに関する調査研究
- (10) その他、農村における各種健康・保健調査の実施
- ①肥満、アルコール、肝疾患などに関する調査研究
 - ②農村における成人病に関する調査研究

③その他

II. 各種研究集会参加・交流並びに開催

(1) 学会への参加

①第46回日本農村医学会への参加（平成9年10月，別府市）

(2) 第15回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会の開催
平成10年2月7日（土），厚生連高岡病院

(3) 中国，河南省との農業災害，農薬中毒，高齢者の実態調査の共同研究

III. 会誌等の印刷物の発刊

①会誌第29巻の発刊

②農村医学に関する啓蒙資料の作成

③その他

IV. その他目的達成に必要な事業

平成9年度収支予算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
会費収入	242,000	
会 費	242,000	242人×1,000円
助成金	900,000	
助 成 金	900,000	富山県より
特別負担金	4,680,000	
特 別 負 担 金	3,480,000	4連×870,000円
調査研究協力費	1,200,000	厚生連より繰入
雑収入	1,723	
雑 収 入	1,723	利息など
前期繰越金	45,653	
収 入 計	5,869,376	

支出の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
会議費	500,000	
総 会 費	150,000	
役員会費	350,000	
事業費	4,990,000	
研究調査費	2,950,000	各種調査研究費
専門委員会費	30,000	“ 打ち合わせなど
研究集会費	500,000	農村医学会参加費、発表集会など
会誌発行費	1,200,000	第29巻発行費
編集委員会費	30,000	
通信費	150,000	
消耗品費	100,000	
備品・什器	30,000	
旅費交通費	200,000	
旅 費 交 通 費	200,000	
事務費	120,000	
事 務 費	120,000	10,000円×12ヶ月
雑費	47,000	
雑 費	47,000	
予備費	12,376	
予 備 費	12,376	
支 出 計	5,869,376	

役員・顧問名簿

平成9年6月7日現在

理 事	役 職
越山健二	全国国保診療施設協議会顧問
松岡忠一	県医務課 課長
山本勝昭	県普及技術課 課長
植出耕一	県健康課 課長
小野啓安	保健所長会長・富山保健所 所長
飯田恭子	保健所長会副会長・黒部保健所 所長
石田礼二	富山県赤十字血液センター所長
館野政也	済生会高岡病院 院長
熊谷武夫	高岡市保健センター所長
黒崎正夫	富山県医師会学術担当理事
中藤康俊	富山大学教授
渡辺正男	前富山医科薬科大学教授
長谷田祐作	元国立富山病院 院長
西能正一郎	西能病院 理事長
北川鉄人	北川クリニック 院長
寺中正昭	寺中クリニック 院長
加藤正義	厚生連高岡病院 院長
小川忠邦	厚生連滑川病院 院長
豊田務	厚生連高岡病院 副院長
大沢勇	富山県農協中央会 組織農政部長
久保博紀	富山県経済連生活部 部長
安宅清一	富山県厚生連 参事
中井かおり	富山県農協婦人組織協議会 会長
高畠尚志	富山県農協青年組織協議会 委員長
高畑すみ子	富山県生活指導員協議会 会長
監 事	役 職
美川郁夫	厚生連高岡病院 副院長
上田七郎	高岡市農林部長
顧 問	役 職
中沖豊	富山県知事
正橋正一	富山県市長会 会長
	富山県町村会 会長 ※
出口国夫	富山県医師会 会長
三芥文雄	富山県厚生部 部長
澤合敏博	富山県農林水産部 部長
松井信勝	富山県農協中央会 会長
戸谷徳一	富山県信連 会長
中西正孝	富山県経済連 会長
大江孝一	富山県厚生連 会長
江西甚昇	富山県共済連 会長

※ 顧問の富山県町村会会長は、町村会総会にて決定されてより依頼する。

第 29 回 通 常 総 会 記 録

日時 平成10年6月6日 午後1時30分～
場所 富 山 県 民 会 館 401 号 室

I. 総会議事の概要

会 員 総 数 286名 うち出席者68名 委任状149名

会 長 挨拶 越山健二

議 長 選 出 厚生連本所 焼田明治

議事録署名人 小杉町 玉井 真
新湊市 佐伯秀信

書 記 宮崎 徹, 井村 守

議 事

第1号議案 平成9年度事業報告書, 財産目録, 収支決算報告承認について

第2号議案 平成10年度事業計画及び収支予算承認について

第3号議案 定款一部変更について

第4号議案 名誉会長の承認について

第5号議案 役員の一部改選について

第6号議案 顧問の一部変更承認について

特 別 講 演 科学ジャーナリスト 天笠哲祐

演 題 「食と環境を見直す

—遺伝子組み換え食品, 環境ホルモン, ダイオキシシン—

II. 平成9年度事業報告書

(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

I. 事業の概況

平成9年度の事業の終了に当たり, 事業の概要について報告致します。

1994年末に決着したウルグアイランドにより, 大量の輸入米や輸入食品が溢れ, 国内農業をますます圧迫しています。しかし, 世論の多くは, 国内の食料自給率を高めることを求め, 国内農産物を食べたいとの結果が出ており, 安心・安全・新鮮な地元農産物の生産に期待が高まっており, 様々な取り組みが始まっています。

さらに, 農業は単に食料生産のみならず, 地域環境を守り, また, 共同生産を通じての共同の意識や, 命を育む心を育てるなど多面的な機能が注目されており, 農業の果たす役割が改めて見直され始めています。

本会では, ますます厳しくなる農業, 農村に生活する人々の豊かで健康な生活を築くため, 会員の

皆さまと共に調査研究を続けてまいりました。

昭和45年より続けております農業災害事故調査、また昭和55年より続けています農業中毒臨床例調査を今年度も実施してまいりました。

また、農業による生体内残留に問題、農業機械騒音による聴力損失、農作業による身体負荷に関する基礎的研究など農業医学的テーマについて農協や関係機関との協力により実施してきた。

農村における健康状態の把握についても高岡、滑川の農村検診センターを始め各関連機関で取り組まれております。また、高齢社会における重要な課題である骨粗鬆症に関する検診についても取り組み、様々な知見が明らかになっています。また、農村における緑の調査も引き続き実施されています。さらに、農業に係わることが、精神的健康を保つ上でも大きな役割を果たしていることについても新たな知見を得つつあります。

これらの研究成果は、平成9年9月にアメリカ合衆国・アイオワ市で開催された第13回国際農村医学会や平成9年10月に別府市で開催された第46日本農村医学会、平成10年2月開催の第15回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表会など、各種学会や本会会誌で発表しています。

以上、本会の活動は医療関係者をはじめ行政、農協および農村の保健と医療に関心のあるあらゆる方々の協力により実施されてきました。次年度も引き続き事業計画に基づき、さらに研究調査に鋭意取り組んでまいりたいと思いますので、会員各位の絶大なるご協力をお願い致します。

最後に県当局、農協各連より絶大なるご援助をいただいておりますことに対して、厚くお礼申し上げます。

II. 主な事業項目の概要

I. 第28回総会（平成9年6月7日、富山県民会館）

- ① 議 事
 - ・平成8年度事業報告、収支決算書承認
 - ・平成9年度事業計画、収支予算書承認
 - ・役員改選、顧問の承認

② 特別講演

講師 哲学者 内山 節 氏
演題 「農の思想を考える」

II. 研究調査活動

(1) 農業災害に関する調査研究

①富山県における農業機械災害事故調査

昭和45年から実施している農業機械災害事故調査を全県の整形外科、外科、眼科、接骨院約90カ所及び共済連の生命共済、傷害共済より臨床例の収集に努めた。本年度も一次調査、二次調査を実施した。事例数は、90例あまりであり、特に減少傾向はなく、今後とも予防対策の強化が望まれた。

②富山県における農業機械以外の農業災害事故調査

昭和55年より実施している標記調査について、前項と同様一次調査、二次調査を実施した。高齢者の事故も多く、今後とも農作業の安全管理が必要と考えられた。

(2) 農薬中毒に関する調査研究

①富山県における農薬中毒の臨床例調査

昭和55年より県内の全ての内科、外科、小児科、皮膚科、眼科を標榜する約750カ所の医療機関を対象に農薬中毒の有無の調査を行い、症例のあった医療機関に詳細報告を求めた。症例は、約20例であり、パラコート剤による症例もいまだに多く、今後とも事故防止に注意をする必要がある。

②生体における農薬残留に関する調査研究

有機リン剤散布について有機リン剤の尿中代謝物である。DMPおよびDMTPを継続的に測定した。その結果、散布後半年以上検出された。これまで、有機リン剤は、容易に代謝され体外に排出されるとされてきたが、かなり長期間にわたり生体中に残留することが明らかとなった。今後、この生体中に残留した農薬の生体影響などについても検討する必要があると考えられた。

(3) 農業機械による騒音曝露による聴力損失について

草刈機やコンバイン作業前後の騒音曝露による聴力損失について検討した。その結果、4 KHzにおける一過性の聴力損失を認めた。ただし、時間の経過とともに回復し、これが、定型的、騒音性難聴に結びつくかは不明であった。ただし、中核農家の者では、すでに作業前から騒音性難聴と考えられる聴力損失が認められる者が多く、農業機械の騒音が何らかの影響を及ぼしていると考えられ、防護が必要性と考えられた。

(4) 農村環境の変化と健康影響に関する調査研究

高岡市農協管内において、1990年以来実施している神社の杉の木の活力度調査を引き続き実施した。また、市内約250カ所で二酸化窒素を夏と冬に測定した。その結果、道路沿い、あるいは工場地帯では二酸化窒素が高かった。また、夏より冬の方が二酸化窒素が高い、緑の活動が大気浄化に役立っていると考えられた。

(5) 農村における各種健康調査

農村検診センターの受診者について、シールを用いた生活習慣の見直し、骨密度と生活習慣の関連の検討、また大腸癌検診の成績などが検討された。

(6) 農村における高齢者問題に関する調査研究

農協共済総合研究所の委託研究「農村における老化とその対応」に関する調査の継続として、生き物の世話の有無と命の営みに関する感動の有無などについて調査した。その結果、子供時代、および現在の生き物の世話の有無と命の営みに関する感動の有無は密接に関連しており、生き物を育てる農業が人間の精神的健康を醸成する上で大きな影響をもたらすと考えられた。

Ⅲ. 各種研究集会参加

(1) 第13回国際農村医学会

- ・開催日 平成9年9月7日(日)～9日(火)

- ・開催場所 アメリカ合衆国アイオワ市
- ・学会長 アイオワ大学名誉教授 L・W・ナップ
- ・会員発表 富山県より3題
 - ①日本における少子高齢社会への対応 越山 健二 他
 - ②農村部と都市部住民におけるスギ花粉症の疫学的特徴 寺西 秀豊 他
 - ③アジアの人々におけるハチ毒に対する特異的IgE抗体に関する研究 新村 律子 他

(2) 第46回日本農村医学会

- ・開催日 平成9年10月23日(木)～24日(金)
- ・開催場所 別府市
- ・学会長 大分県厚生連鶴見病院長 明石光伸
- ・会員発表 富山県より7題
 - ①骨粗鬆症検診における問診内容の検討 山下美智子 他
 - ②農村における緑の調査 大浦 栄次 他
 - ③看護業務調査(タイムスタディ法を用いて) 川尻けい子 他
 - ④胃内視鏡検査を受ける患者の不安調査 赤江 郁子 他
 - ⑤高齢者に社会性の向上を生み出した遊びリテーションの効果 中森 香織 他
 - ⑥性格型と精密検査受診行動の関連 -アンケート調査を試みて- 沼田絵り子 他
 - ⑦農作業粉塵曝露者の真菌類による感作状況
並びに粉塵防護に関する意識調査 岸 宏栄 他

(3) 第15回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表会

- ・開催日 平成10年2月21日(土)
- ・開催場所 厚生連高岡病院 地域医療研修室
- ・特別発言 越山健二 「生老病死を垣間見る」
- ・会員発表 11題
 - ①高齢者助け合い組織「結いの会」の活動について 曲 真由美 他
 - ②入善町農協における高齢者福祉活動の現状と課題 清水由美子 他
 - ③「命の営み」との関わりの実態 大浦 栄次
 - ④大腸癌検診の成績と問題点 小川 忠邦 他
 - ⑤二次検診受診率向上の検討 福田久美子 他
 - ⑥20才代、看護職員の食実態 山下美智子 他
 - ⑦生活習慣の見直し -シールを用いて間食の実態を知る- 新田 一葉 他
 - ⑧ブラジル・カンピーナス訪問記 -日本移民農場を見学して- 北川 鉄人
 - ⑨有機リン剤の生体内残留について 中崎美峰子 他
 - ⑩当科におけるアレルギー性鼻炎の現状 豊田 務 他
 - ⑪HbA_{1c}値と尿路感染の関連 七軒 美紀 他

IV. 印刷物の刊行

会誌第29巻の発刊

Ⅲ. 主な行事（平成9年4月1日～平10年3月31日）

年月日	主 な 行 事	
	事 項	場 所
9. 5. 19	平成8年度第2回理事会	厚生連会議室（9名）
6. 7	第28回総会	富山県民会館
6. 27	日本農村医学会理事会	別府市（越山会長）
7.	緑の調査, 大気汚染（二酸化窒素）の測定（12月）	高岡市
9.	前期農薬中毒・農業災害事故調査	
9. 7～9	第13回国際農村医学会	アメリカ合衆国・アイオワ （越山会長, 寺西, 新村）
10. 23～24	第46回日本農村医学会	別府市（発表演題7題）
12. 17	平成9年度第1回理事会	厚生連会議室（10名）
10. 1.	後期農薬中毒, 農業災害事故調査	
1. 30	日本農村医学会理事会	東京（越山会長）
2. 21	第15回富山県農村医学研究及び 健康管理活動発表集会	厚生連高岡病院（約60名）

IV. 総 会

第28回通常総会

平成9年6月7日

総会日現在会員数		242名
出席会員数	実際に出席した会員	60名
	代理議決	0名
	書面議決	145名
	計	205名
<p>重要な議事及び議決事項</p> <p>第1号議案 平成8年度事業報告書、財産目録、収支決算書承認について 原案承認</p> <p>第2号議案 平成9年度事業計画案及び収支予算案承認について 原案承認</p> <p>第3号議案 役員の改選について 原案承認</p> <p>第4号議案 顧問の承認について 原案承認</p> <p>※議事終了後、講演会を開催 特別講演 哲学者 内山 節氏 「農の思想を考える」</p>		

財 産 目 録

(平成10年3月31日現在)

(単位:円)

内 訳	金 額	備 考
預 金	245,685	
計	245,685	

平成9年度収支決算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	差引額	備 考
会費収入	242,000	286,000	44,000	
会 費	242,000	286,000	44,000	286人×1,000円
助成金	900,000	900,000	0	
助 成 金	900,000	900,000	0	富山県より
特別負担金	4,680,000	4,680,000	0	
特 別 負 担 金	3,480,000	3,480,000	0	4連×870,000円
調査研究協力費	1,200,000	1,200,000	0	厚生連より繰入
雑収入	1,723	1,158	-565	
雑 収 入	1,723	1,158	-565	利息など
前期繰越金	45,653	45,653	0	
収 入 計	5,869,376	5,912,811	43,435	

支出の部

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	差引額	備 考
会議費	500,000	481,321	-18,679	
総 会 費	150,000	172,538	22,538	
役員会費	350,000	308,783	-41,217	
事業費	4,990,000	4,910,933	-79,067	
研究調査費	2,950,000	2,121,736	-828,264	各種調査研究費
専門委員会費	30,000	5,000	-25,000	“ 打ち合わせなど
研究集会費	500,000	548,697	48,697	日本農村医学会参加費など
会誌発行費	1,200,000	2,047,500	847,500	第29巻発行費
編集委員会費	30,000	0	-30,000	
通信費	150,000	68,500	-82,000	
消耗品費	100,000	120,000	20,000	
備品・什器	30,000	0	-30,000	
旅費交通費	200,000	126,340	-73,660	
旅 費 交 通 費	200,000	126,340	-73,660	
事務費	120,000	120,000	0	
事 務 費	120,000	120,000	0	10,000円×12ヶ月
雑 費	47,000	28,532	-18,468	
雑 費	47,000	28,532	-18,468	
予備費	12,376	0	-12,376	
予 備 費	12,376	0	-12,376	
支 出 計	5,869,376	5,667,126	-202,250	
次期繰越金	0	245,685	245,685	

平成10年度事業計画

I. 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明るく健康な村づくりに寄与する。

特に、農薬中毒や農業災害、職業性疾患等農業医学的分野及び、農村環境や農村生活に起因する農村医学的分野について調査研究を行う。さらに、命を育む農業を営む事の精神的、社会的、文化的意義を明らかにし、心豊かな農村づくりに寄与する。

II. 事業計画概要

1. 農村の職業性疾患の調査研究
 - ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
 - ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する調査研究
 - ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究
3. 農薬の生体に及ぼす影響に関する調査研究
 - ・農薬中毒の実態調査
 - ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
 - ・農薬の生体残留に関する調査研究
4. 健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
 - ・農業従事者の健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の成人病の実態調査とその対策に関する調査研究
5. 農村における社会医学的研究
 - ・農村における高齢者に関する調査研究
 - ・社会変動による農業従事者の生活・健康に及ぼす影響についての調査研究
 - ・都市近郊農村における社会医学的研究
 - ・農村における食生活の変化と健康影響に関する調査研究
6. 農村における特殊疾患の調査研究
 - ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
7. 農村における環境汚染と健康影響に関する調査研究
8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究
9. 農村の健康会議、健康教室等の実施
10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行
11. 研究集会の参加及び開催
12. その他目的達成に必要な事項

III. 主な事業計画

I. 主な調査研究

- (1) 農業災害に関する調査研究

- ①富山県における農業機械災害事故調査
- ②富山県における農業機械以外による農業災害事故調査
- (2) 農薬中毒に関する調査研究
 - ①富山県における農薬中毒の臨床例の収集とその問題点の解析
 - ②農薬散布者の健康調査
 - ③有機リン剤の体内残留に関する調査研究
- (3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究
 - ①農村地区における花粉症に関する調査研究
 - ②農村住民のアレルギー疾患に関する調査研究
- (4) 農作業及び農作業環境と健康障害に関する調査研究
 - ①各種農作業における作業環境及び労働負荷に関する調査研究
- (5) 農山村における騒音と聴力障害などに関する調査研究
 - ①農業機械の騒音分析及び作業中騒音暴露量の測定
 - ②農作業騒音防止に関する調査研究
- (6) 農村環境の変化と健康影響に関する調査研究
 - ①農村における緑の調査
 - ②農村における大気汚染に関する調査研究
 - ③農薬による環境汚染に関する調査研究
- (7) 農村における生活習慣と健康に関する調査研究
 - ①食生活と健康に関する調査研究
 - ②農村生活の変化と健康障害に関する調査研究
- (8) 農村におけるプライマリーヘルスケアに関する調査研究
 - ①農村における健康管理運動に関する調査研究
 - ②農村検診における各種疾患の要因分析に関する調査研究
- (9) 農村における高齢者問題に関する調査研究
 - ①農村高齢者の生きがい因子の解析に関する調査研究
 - ②農村におけるコミュニティ・ケアに関する調査研究
- (10) その他、農村における各種健康・保健調査の実施
 - ①肥満、アルコール、肝疾患などに関する調査研究
 - ②農村における成人病に関する調査研究
 - ③その他

II. 各種研究集会参加・交流並びに開催

(1) 学会への参加

①第47回日本農村医学会への参加（平成10年10月，岐阜市）

(2) 第16回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会の開催

平成11年2月6日（土），厚生連高岡病院

(3) 中国，河南省との農業災害，農薬中毒，高齢者の実態調査の共同研究

III. 会誌等の印刷物の発刊

①会誌第30巻の発刊

②農村医学に関する啓蒙資料の作成

③その他

IV. その他目的達成に必要な事業

平成10年度収支予算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
会費収入	286,000	
会 費	286,000	286人×1,000円
特別負担金	4,680,000	
特 別 負 担 金	3,480,000	4連×870,000円
調 査 研 究 協 力 費	1,200,000	厚生連より繰入
雑収入	1,158	
雑 収 入	1,158	利息など
前期繰越金	245,685	
収 入 計	5,212,843	

支出の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
会議費	450,000	
総 会 費	150,000	
役 員 会 費	300,000	
事業費	4,500,000	
研 究 調 査 費	2,700,000	各種調査研究費
専 門 委 員 会 費	30,000	〃 打ち合わせなど
研 究 集 会 費	300,000	農村医学会参加費，発表集会など
会 誌 発 行 費	1,200,000	第30巻発行費
編 集 委 員 会 費	30,000	
通 信 費	120,000	
消 耗 品 費	80,000	
備 品 ・ 什 器	40,000	
旅費交通費	200,000	
旅 費 交 通 費	200,000	
雑費	47,000	
雑 費	47,000	
予備費	15,843	
予 備 費	15,843	
支 出 計	5,212,843	

役員・顧問名簿

平成10年6月6日現在

理 事	役 職
越山健二	全国国保診療施設協議会顧問
松岡忠一	県医務課 課長
山本勝昭	県普及技術課 課長
植出耕一	県健康課 課長
小野啓安	保健所長会長・富山保健所 所長
飯田恭子	保健所長会副会長・黒部保健所 所長
石田礼二	富山県赤十字血液センター所長
舘野政也	済生会高岡病院 院長
熊谷武夫	高岡市保健センター所長
黒崎正夫	富山県医師会学術担当理事
中藤康俊	富山大学教授
渡辺正男	前富山医科薬科大学教授
長谷田祐作	元国立富山病院 院長
西能正一郎	西能病院 理事長
北川鉄人	北川クリニック 院長
寺中正昭	寺中クリニック 院長
加藤正義	厚生連高岡病院 院長
小川忠邦	厚生連滑川病院 院長
豊田務	厚生連高岡病院 副院長
大沢勇	富山県農協中央会 組織農政部長
久保博紀	富山県経済連生活部 部長
安宅清一	富山県厚生連 参事
中井かおり	富山県農協婦人組織協議会 会長
高島尚志	富山県農協青年組織協議会 委員長
高畑すみ子	富山県生活指導員協議会 会長
監 事	役 職
美川郁夫	厚生連高岡病院 副院長
上田七郎	高岡市農林部長
顧 問	役 職
中沖豊一	富山県知事
正橋正	富山県市長会 会長
	富山県町村会 会長 ※
出口国夫	富山県医師会 会長
三觜文雄	富山県厚生部 部長
澤合敏博	富山県農林水産部 部長
松井信勝	富山県農協中央会 会長
戸谷徳一	富山県信連 会長
中西正孝	富山県経済連 会長
大江孝一	富山県厚生連 会長
江西甚昇	富山県共済連 会長

※ 顧問の富山県町村会会長は、町村会総会にて決定されてより依頼する。

第 30 回 通 常 総 会 記 録

日時 平成11年 6月12日 午後 1時30分～
場所 富山県農協会館 8 階 研修室

I. 総会議事の概要

会 員 総 数 235名 うち出席者51名 委任状177名
 会 長 挨拶 豊田 務
 議 長 選 出 厚生連本所 焼田明治
 議事録署名人 小杉町 玉井 真
 新湊市 佐伯秀信
 書 記 山口知科, 中井達也
 議 事
 第 1 号議案 平成10年度事業報告書, 財産目録, 収支決算報告承認について
 第 2 号議案 平成11年度事業計画及び収支予算承認について
 第 3 号議案 役員の改選について
 第 4 号議案 顧問の承認について
 特 別 講 演 愛知県厚生連知多厚生病院院長 片桐健二
 演 題 「地域の協力の力で, 保健・医療・福祉の連携を探る」

II. 平成10年度事業報告書

(平成10年 4月 1日～平成11年 3月31日)

I. 事業の概況

平成10年度の事業の終了に当たり, 事業の概要について報告致します。

1994年末に決着したウルグアイランドにより, 大量の輸入米や食糧輸入により国内農業をますます圧迫されています。これら輸入食品にはポストハーベスト農薬汚染や遺伝子組み換え食品等安全性に問題のあるものが多く, 国民の健康脅かす問題として危惧されています。さらに, 農薬を始め様々な化学物質が環境ホルモンとして働き, 人間を始め生物の生存そのものを危うくする問題として注目を浴びています。

世論の多くは, 国内の食糧自給率を高め, 国内農産物を食べたいとの結果が出ており, 安心・安全・新鮮な地元農産物への期待が高まっています。

本会ではますます厳しくなる農業生産や農村に生活する人々の豊かで健康な生活を築くため, 会員の皆さまと共に調査研究を続けてきました。

昭和45年より続けています農業災害事故調査, また昭和55年より続けています農薬の生体内残留の問題, 土壌燻蒸剤の生体影響調査, 農作業による身体負荷に関する基礎的研究など農業医学的テーマ

について農協や関係機関との協力により実施してきました。

農村における健康状態の把握についても高岡、滑川の農村検診センターを始め各関連機関で取り組まれています。また、高齢社会における重要な課題である骨粗鬆症に関する検診についても取り組まれ、様々な知見が明らかになっています。また、農村における緑の調査も引き続き実施しました。さらに、農業に係わることが、精神的健康や生き甲斐を保つ上でも大きな役割を果たしていることについても新たな知見を得ています。

これらの研究成果は、平成10年10月に岐阜市で開催された第47日本農村医学会、平成11年2月開催の第16回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会など、各種学会や本会会誌で発表しています。

以上、本会の活動は医療関係者のもとより行政、農協および農村の保健と医療に関心のあるあらゆる方々の協力により実施されてきました。次年度も引き続き事業計画に基づき、さらに研究調査に鋭意取り組んでいきたいと思っておりますので、会員各位の絶大なるご協力をお願い致します。

最後に農協各連より絶大なるご援助をいただいておりますことに対して、厚くお礼申し上げます。

II. 主な事業項目の概要

I. 第29回総会（平成10年6月6日、富山県民会館）

- ① 議 事
 - ・平成9年度事業報告、収支決算書承認
 - ・平成10年度事業計画、収支予算書案承認
 - ・役員の一部改選、顧問の一部変更承認

② 特別講演

講師 科学ジャーナリスト 天 笠 啓 介 氏

演題 「食と環境を見直す

—遺伝子組み換え食品、環境ホルモン、ダイオキシン—」

II. 研究調査活動

(1) 農薬の生体影響に関する調査研究

①富山県における農薬中毒の実態調査

県内の内科、外科、小児科、皮膚科、眼科を標榜するすべての医療機関を対象に昭和55年より農薬中毒の臨床例調査を実施している。症例の有無を問う第一次調査の回収率は約50%である。これまで最も多かったパラコート剤による中毒は減少傾向にあるが、いまだに最も多く、今後とも保管管理等の注意が必要と考えられる。

②農薬散布者の健康調査

有機リン剤の生体内残留について、外科手術時に体脂肪を採取した。現在、脂肪中の有機リン剤の分析方法について検討し、その回収率はほぼ満足いくことが確認できた。今後、実際の資料について分析し、有機リン剤の生体残留について検討する。

また、尿中代謝物の排泄状況について、通年にわたり早朝尿を採取し続け、農薬散布時期、非散布時期における排泄状況を検討し、有機リン剤の生体内残留の可能性について検討した。

(2) 農業災害事故調査

①農業機械による農業災害事故調査

県内の全ての整形外科，外科，眼科，接骨院に臨床例の有無を問う第一次調査をし，症例有りの医療機関に詳細調査票を送付し，農業災害事故の症例を収集した。また，共済連の生命共済証書を検索して，当該年度における農業機械による災害事故の収集につとめた。

②農業機械以外による農業災害事故調査

上記調査と同様に，農業機械以外による農業災害事故についての調査を実施した。

(3) 農村におけるアレルギーに関する調査研究

小児の卵アレルギーの患者の血清に対して，地場の穀物等により育てた鶏の卵蛋白と，通常の飼料で育てられた卵蛋白の抗原抗体反応をCAP-RAST法により検討した。その結果，地場の穀物等で育てた卵に比較して，通常に育てられた卵の方がアレルギー反応性が若干高かった。これは，通常飼育された鶏の卵では，抗生物質，農薬などの混入が考えられ，このことがアレルギー性を高めているとも考えられた。

今後，さらに純粋に無農薬飼料などで育てた鶏などで例数を増やして検討する必要があると考えられた。

(4) 農村における生活習慣病の発症要因に関する調査研究

①生活習慣病とストレスの関連

厚生連検診センターにおける受診者についてストレスの内容と各検診項目の関連について多重ロジスティック回帰分析を試みた。その結果，明確な疾患との関連をうかがわせる項目は明らかにならなかった。今後，ストレス問診の内容についてより実態を把握出来る内容について検討する必要があると考えられた。

②骨粗鬆症と生活習慣の関連について

骨検診受診者約1,000名について食習慣ならびに，農作業従事の有無等についてアンケート調査を実施した。その結果，小・中学生時代に牛乳を飲む習慣のあった者では，どの年代も骨密度が高い傾向にあった。また，農業従事者と非従事者では従事者の方が若干骨密度が高い傾向にあり，農作業従事が健康保持に重要な役割を果たしている可能性が示唆された。

ただし，その他の食生活問診や生活習慣との関連は明確ではなく，今後問診内容について検討が必要と考えられた。

(5) 農村環境と健康に関する調査研究

高岡市農協管内52カ所の神社の杉の木について1990年以来実施している活力度調査を実施した。また，市内約200カ所の定点観測点で夏にNO₂を測定した。結果は例年通り，工場地帯のNO₂が高く，また農村地帯が低く，緑の活動が大気浄化に役立っていることが示唆された。

(6) 農村の高齢者の生きがいに係わる要因に関する調査研究

全国7カ所における高齢者約1,400人についてアンケートにより168項目の生活，健康，仕事，家族関係等について調査し生きがいの有無とその関連要因について多重ロジスティック回帰分析を行った。その結果，それぞれの集団の地域性，性別，そのひとの置かれている様々な立場によ

り、生きがいを厚生する要因が異なり、高齢者の生きがい対策はそれぞれの条件により多面的に対応する必要があると考えられた。

Ⅲ. 各種研究集会参加

(1) 第47回日本農村医学会

- ・開催日時 平成10年10月1日(木)～2日(金)
- ・開催場所 岐阜市
- ・学会長 岐阜県厚生連岐北病院長 堅木義友
- ・指定報告

「農村における老化とその対応」

－生き甲斐に関連する要因分析－ 渡辺正男

- ・会員発表 富山県より7題

- | | |
|--|---------|
| ①長期臥床患者における簡易折り込みシート交換の有用性 | 永原 泰子 他 |
| ②HbA _{1c} 値と尿路感染との関連 | |
| －当科入院患者におけるデータ分析 | 七軒 美紀 他 |
| ③ストレスと検診データの関連について | 岸 宏栄 他 |
| ④「命と営み」との関わりが人格形成に果たす役割 | 大浦 栄次 他 |
| ⑤ソフトシーネ固定中患者の踵部における材質による
発赤・疼痛軽減の検討 | |
| －ゴールドホットバックの有効性について－ | 稲葉 美香 他 |
| ⑥精密検査受診率向上の検討 | |
| －胃要精検者へ調査書2回配布を試みて－ | 福田久美子 他 |
| ⑦20才代、看護職員の食の実態 | 山下美智子 他 |

(2) 第15回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会

- ・開催日時 平成11年2月6日(土)
- ・開催場所 厚生連高岡病院 地域医療研修室
- ・特別報告 西野治身(県衛生研究所)
骨粗鬆症検診における骨代謝マーカー測定の意義

- ・会員発表 13題

- | | |
|---------------------------|---------|
| ①肥満体が体重増加を続ける要因を探る | |
| －体重が減少した肥満者との比較－ | 坪野 由美 他 |
| ②富山県における飲酒様態調査(1) | |
| －先端企業における調査－ | 黒牧 裕子 他 |
| ③検診発見痛から見た胃癌検診の制度と効率について | 小川 忠邦 |
| ④健康観の変化が日常生活習慣に及ぼす影響 | 吉岡 香代 他 |
| ⑤滑川総合検診センターにおける骨密度検診の検討 | 岸 宏栄 他 |
| ⑥耐圧分散寝具の皮膚血流に関する検討 | 西尾恵美子 他 |
| ⑦発達のめやすとおもちゃ ー0歳児が喜ぶおもちゃー | 毛利 時子 他 |
| ⑧高齢者助け合い組織「日だまりの会」の活動について | 中田 博子 |

⑨今後の介護教室のあり方について

—介護教室の受講者アンケートより—

⑩妻の在宅看護を行っている夫との関わりを通して

⑪「病・老・死」に対する真情（第2報）

⑫農村高齢者の生きがいに関する意識調査（続報）

⑬「命の営み」との関わりの実態（第2報）

山下美智子

蔵 雅美他

豊田 務他

渡辺 正男他

大浦 栄次他

IV. 印刷物の刊行

会誌第30巻の発刊

Ⅲ. 主な行事（平成10年4月1日～平11年3月31日）

年月日	主 な 行 事	
	事 項	場 所
10. 4. 30	幹事会	厚生連会議室（6名）
5. 15	平成9年度第2回理事会	厚生連会議室（9名）
6. 6	第29回総会	富山県民会館
6. 27	日本農村医学会理事会	岐阜市（越山名誉会長）
7.	緑の調査, 大気汚染（二酸化窒素）の測定	高岡市
10. 1～2	第47回日本農村医学会	岐阜市（指定報告1題・会 員発表7題）
11. 19	平成10年度第1回理事会	
12.	里芋・子芋外し労働負荷量調査	厚生連会議室（8名）
11. 1.	農薬中毒, 農業災害事故調査	
1. 29	日本農村医学会理事会	東京（越山名誉会長）
2. 6	第16回富山県農村医学研究及び 健康管理活動発表集会	厚生連高岡病院（約70名）

IV. 総 会

第29回通常総会

平成10年6月6日

総会日現在会員数		286名
出席会員数	実際に出席した会員	149名
	代理議決	0名
	書面議決	68名
	計	217名
<p>重要な議事及び議決事項</p> <p>第1号議案 平成9年度事業報告書、財産目録、収支決算書承認について 原案承認</p> <p>第2号議案 平成10年度事業計画案及び収支予算案承認について 原案承認</p> <p>第3号議案 定款の一部変更について 原案承認</p> <p>第4号議案 名誉会長の承認について 原案承認</p> <p>第5号議案 役員の一部改選について 原案承認</p> <p>第6号議案 顧問に一部変更承認について 原案承認</p> <p>※議事終了後、講演会を開催 特別講演 科学ジャーナリスト 天笠啓介氏 「食と環境を見直す － 遺伝子組み換え食品、環境ホルモン、ダイオキシン－」</p>		

財 産 目 録

(平成11年3月31日現在)

(単位：円)

内 訳	金 額	備 考
預 金	474,339	
計	474,339	

平成10年度収支決算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	差引額	備 考
会費収入	286,000	235,000	-51,000	
会 費	286,000	235,000	-51,000	235人×1,000円
特別負担金	4,680,000	4,680,000	0	
特別負担金	3,480,000	3,480,000	0	4連×870,000円
調査研究協力費	1,200,000	1,200,000	0	厚生連より繰入
雑収入	1,158	73,288	72,130	
雑収入	1,158	73,288	72,130	利息など
前期繰越金	245,685	245,685	0	
収入計	5,212,843	5,233,973	21,130	

支出の部

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	差引額	備 考
会議費	450,000	560,032	110,032	
総会費	150,000	183,900	33,900	
役員会費	300,000	376,132	76,132	
事業費	4,500,000	4,111,327	-388,673	
研究調査費	2,700,000	2,337,805	-362,195	各種調査研究費
専門委員会費	30,000	0	-30,000	〃 打ち合わせなど
研究集会費	300,000	305,022	5,022	日本農村医学会参加費など
会誌発行費	1,200,000	1,228,500	28,500	第30巻発行費
編集委員会費	30,000	0	-30,000	
通信費	120,000	120,000	0	
消耗品費	80,000	120,000	40,000	
備品・什器	40,000	0	-40,000	
旅費交通費	200,000	63,600	-136,400	
旅費交通費	200,000	63,600	-136,400	
雑費	47,000	24,675	-22,325	
雑費	47,000	24,675	-22,325	
予備費	15,843	0	-15,843	
予備費	15,843	0	-15,843	
支出計	5,212,843	4,759,634	-453,209	
次期繰越金	0	474,339	474,339	

平成11年度事業計画

I. 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明るく健康な村づくりに寄与する。

特に、農薬中毒や農業災害、職業性疾患等農業医学的分野及び、農村環境や農村生活に起因する農村医学的分野について調査研究を行う。さらに、命を育む農業を営む事の精神的、社会的、文化的意義を明らかにし、心豊かな農村づくりに寄与する。

II. 事業計画概要

1. 農村の職業性疾患の調査研究
 - ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
 - ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する調査研究
 - ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究
3. 農薬の生体に及ぼす影響に関する調査研究
 - ・農薬中毒の実態調査
 - ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
 - ・農薬の生体残留に関する調査研究
4. 健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
 - ・農業従事者の健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の成人病の実態調査とその対策に関する調査研究
5. 農村における社会医学的研究
 - ・農村における高齢者に関する調査研究
 - ・社会変動による農業従事者の生活・健康に及ぼす影響についての調査研究
 - ・都市近郊農村における社会医学的研究
 - ・農村における食生活の変化と健康影響に関する調査研究
6. 農村における特殊疾患の調査研究
 - ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
7. 農村における環境汚染と健康影響に関する調査研究
8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究
9. 農村の健康会議、健康教室等の実施
10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行
11. 研究集会の参加及び開催
12. その他目的達成に必要な事項

III. 主な事業計画

1. 主な調査研究

- (1) 農業災害に関する調査研究

- ①富山県における農業機械災害事故調査
- ②富山県における農業機械以外による農業災害事故調査

- (2) 農薬中毒に関する調査研究
 - ①富山県における農薬中毒の臨床例の収集とその問題点の解析
 - ②農薬散布者の健康調査
 - ③有機リン剤の体内残留に関する調査研究

- (3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究
 - ①農村地区における花粉症に関する調査研究
 - ②農村住民のアレルギー疾患に関する調査研究

- (4) 農作業及び農作業環境と健康障害に関する調査研究
 - ①各種農作業における作業環境及び労働負荷に関する調査研究

- (5) 農山村における騒音と聴力障害などに関する調査研究
 - ①農業機械の騒音分析及び作業中騒音暴露量の測定
 - ②農作業騒音防止に関する調査研究

- (6) 農村環境の変化と健康影響に関する調査研究
 - ①農村における緑の調査
 - ②農村における大気汚染に関する調査研究
 - ③農薬による環境汚染に関する調査研究

- (7) 農村における生活習慣と健康に関する調査研究
 - ①食生活と健康に関する調査研究
 - ②農村生活の変化と健康障害に関する調査研究

- (8) 農村におけるプライマリーヘルスケアに関する調査研究
 - ①農村における健康管理運動に関する調査研究
 - ②農村検診における各種疾患の要因分析に関する調査研究

- (9) 農村における高齢者問題に関する調査研究
 - ①農村高齢者の生きがい因子の解析に関する調査研究
 - ②農村におけるコミュニティ・ケアに関する調査研究

- (10) その他、農村における各種健康・保健調査の実施
 - ①肥満、アルコール、肝疾患などに関する調査研究
 - ②農村における成人病に関する調査研究
 - ③その他

II. 各種研究集会参加・交流並びに開催

(1) 学会への参加

①第48回日本農村医学会への参加（平成11年10月，松江市）

(2) 第17回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会の開催

平成12年2月5日（土），厚生連高岡病院

(3) 北陸3県の農村医学研究の交流

(4) 中国，河南省との農業災害，農薬中毒，高齢者の実態調査の共同研究

III. 会誌等の印刷物の発刊

①会誌第31巻の発刊

②農村医学に関する啓蒙資料の作成

③その他

IV. その他目的達成に必要な事業

平成11年度収支予算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
会費収入	235,000	
会 費	235,000	235人×1,000円
特別負担金	4,680,000	
特 別 負 担 金	3,480,000	4連×870,000円
調 査 研 究 協 力 費	1,200,000	厚生連より繰入
雑収入	1,288	
雑 収 入	1,288	利息など
前期繰越金	474,339	
収 入 計	5,390,627	

支出の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
会議費	500,000	
総 会 費	200,000	
役 員 会 費	300,000	
事業費	4,600,000	
研 究 調 査 費	2,800,000	各種調査研究費
専 門 委 員 会 費	30,000	“ 打ち合わせなど
研 究 集 会 費	300,000	農村医学会参加費, 発表集会など
会 誌 発 行 費	1,200,000	第31巻発行費
編 集 委 員 会 費	30,000	
通 信 費	120,000	
消 耗 品 費	80,000	
備 品 ・ 什 器	40,000	
旅費交通費	200,000	
旅 費 交 通 費	200,000	
雑 費	70,000	
雑 費	70,000	
予 備 費	20,627	
予 備 費	20,627	
支 出 計	5,390,627	

役員・顧問名簿

平成11年6月12日現在

理 事	役 職
越山健二	全国国保診療施設協議会顧問
松岡忠一	県医務課 課長
山本勝昭	県普及技術課 課長
植出耕一	県健康課 課長
小野啓安	保健所長会長・富山保健所 所長
飯田恭子	保健所長会副会長・黒部保健所 所長
石田礼二	富山県赤十字血液センター所長
笹野政也	済生会高岡病院 院長
熊谷武夫	高岡市保健センター所長
黒崎正夫	富山県医師会学術担当理事
中藤康俊	富山大学教授
渡辺正男	前富山医科薬科大学教授
長谷田祐作	元国立富山病院 院長
西能正一郎	西能病院 理事長
北川鉄人	北川クリニック 院長
寺中正昭	寺中クリニック 院長
加藤正義	厚生連高岡病院 院長
小川忠邦	厚生連滑川病院 院長
豊田務	厚生連高岡病院 副院長
大沢勇	富山県農協中央会 組織農政部長
久保博紀	富山県経済連生活部 部長
安宅清一	富山県厚生連 参事
中井かおり	富山県農協婦人組織協議会 会長
高畠尚志	富山県農協青年組織協議会 委員長
高畑すみ子	富山県生活指導員協議会 会長
監 事	役 職
美川郁夫	厚生連高岡病院 副院長
上田七郎	高岡市農林部長
顧 問	役 職
中正	富山県知事
沖橋正一	富山県市長会 会長
	富山県町村会 会長 ※
出口国夫	富山県医師会 会長
三笥文雄	富山県厚生部 部長
澤合敏博	富山県農林水産部 部長
松井信勝	富山県農協中央会 会長
戸谷徳一	富山県信連 会長
中西正孝	富山県経済連 会長
大江孝一	富山県厚生連 会長
江西甚昇	富山県共済連 会長

※ 顧問の富山県町村会会長は、町村会総会にて決定されてより依頼する。

投 稿 規 定

募 集 原 稿 農村医学の分野における独創的な研究および会員のたよりとします。

投 稿 の 資 格 投稿者は原則として富山県農村医学研究会会員とします。

原 稿 の 送 り 先 富山県農村医学研究会事務局宛（富山県高岡市永楽町5番10号）

投稿原稿の掲載選択順位は編集委員にご一任下さい。

論文の原稿の形式

1. 本文は本会規定の原稿用紙に、口語体、平かな、新かなづかいで、できるだけ簡潔に横書して下さい。
2. 外人名、地名、その他の固有名詞、特別な化合物名などは、できるだけ原綴のまま（Pasteur, Prostigmin等）とし、動植物名は日本名の次に学名（ローマ字 Moccusruslesus, 山椒藻 Salvinabatah等）を記入する。計量にかんするものはメートル法に準拠し、次のような略号を用いる。メートルm, センチメートルcm, グラムg, キログラムkg等。
3. コンマ（,）ピリオド（.）コロン（:）ゴシックの使用等に気をつけて下さい。
4. 図表は、そのまま製版できるように上質ケント紙または方眼紙に墨で、ていねいに書いて下さい。
（図表は、特殊なものを除いては、出来上がり左右6.5cmに製版しますから、その2倍か3倍に書いて下さい。）
図表の文字は、こちらで記入しますから、鉛筆で書いて下さい。
5. 写真は出来るだけ鮮明なものをお送り下さい。
6. 本文に挿入する図表、写真については、挿入場所を原稿の欄外に明記（末記）して下さい。

無 料 掲 載 原稿用紙20枚（刷り上がり5頁）までとします。ただし挿入附図、附表を含みます。

有 料 掲 載 超過頁の印刷代、附図、附表の製版代の実費は投稿者の負担とします。ただし刷り上がり15頁を限度とし長篇の論文を5頁ずつ分割掲載することは認められません。

文 献

1. 雑誌の場合 著者名、標題名（雑誌指定の略号）、巻数（号数）、頁一頁、発行年月（昭和152.5のごとく。）
2. 単行本の場合 著者名：標題名、発行所、発行地、発行年月（必要ならば引用の箇所の頁を最後に）

印 刷 印刷の部数や体裁などについてはある程度まで、実費をもってご希望に応じます。ただし別刷30部までは無料で投稿者に進呈、30部以上は実費をご負担願います。

編集後記

来年は、21世紀。この100年はどんな時代だったのでしょうか。

農民は牛馬のように田に這いずり、健康の「け」の字も問題にならない状態で20世紀は幕開けをしました。それから一世紀、農村医学の先達が、農家の健康管理、病気の予防に山野を駆けめぐりました。農村が中心となって始まった巡回診療も今は、老人保健法の成立で、農村の人だけでなく多くの人が、病気になる前に早期発見できる検診を受ける機会を持つことができるようになりました。また、農薬中毒、農業災害なども未だに解決されたとは言えませんが、生産優先から、様々な予防対策が取られるようになってきました。また、不衛生な環境から来る病気も根絶はされないまでも、その多くが解決の方向にあります。

その結果、農村生活は、極めて快適になってきたように思われます。

しかし、一方、遺伝子組み換え食品、ポストハーベスト農薬、化学物質による環境ホルモンの問題、地球の温暖化など、便利な生活を享受した結果として、地球規模の、また次世代までにわたるグローバルな問題や、また、少子高齢社会の進展により、高齢者介護や地域の伝統的な文化の継承など新たな課題も発生しています。さらに、最近の青少年に関わる心の荒廃なども深刻な問題となってきています。

総じて20世紀は、多くの社会進歩を伴いつつも、物質的利便さのみを追い求め、環境や、生態や、人類や、精神的な問題、計数化されない物、いのちに関する課題の衰弱を伴ってきたと言わざるを得ません。

農業は、いのちを生み育てる生命産業です。21世紀は、生命が尊重される時代、いのちの復権の時代にしたいものです。いのちを生み育てる農業の人類に対する価値について明らかにする課題が、21世紀における農村医学の重要な課題の一つと言えるのではないかと思います。その一助として、本誌の役割が益々重要になるのではないかと思います。

(E. O)

編集委員 越山健二、渡辺正男、北川鉄人

富山県農村医学研究会誌 第31巻平成12年3月21日印刷・3月31日発行

富山県高岡市永楽町5番10号・富山県厚生連内 電話 富山(0766)20-7774

編集、発行所 富山県農村医学研究会 事務局長 堀江耕治

印刷所 中央印刷株式会社 富山市下奥井町 電話(076)432-6572
